

Library information

図書館だより

○中央 ☎072-950-5501 (月)休館 ○丹比 ☎072-937-2355 (月)休館
 ○陵南の森 ☎072-952-2750 (月)休館 ○羽曳が丘 ☎072-957-5553 (月)休館
 ○東部 ☎072-950-2002 (月)休館
 ○古市 ☎072-958-0050 (月)休館 開館時間 10:00～17:30
 ○ブックステーションはびきのコロセアム ☎072-937-7210 (火)休館 13:30～16:30 開館
 全館休館 毎月最終水曜 (12月を除く・祝日の場合は翌日)

●開館時間 10:00～18:00 (中央は平日 10:00～20:00 土日祝 10:00～18:00)

おはなし会 (3月)				今月の特集テーマ		
中央図書館	2日(土) 16日(土) 30日(土)	11:00～	一般	気の向くままに旅に出たいなあ		
	10日(日) 24日(日)	14:00～	児童	花の本		
	16日(土)	15:00～				
陵南の森図書館	3日(日) 10日(日) 23日(土)	11:00～	一般	エッセイ Essay! Essai!!		
	16日(土)	15:00～				
	17日(日) 小さい子向き	11:00～	児童	ありがとう さようなら はじめまして こんにちは		
東部図書館	13日(水)	10:30～		海外のおはなし		
丹比図書館	23日(土)	10:30～	一般	まったり、ほっこり、ゆる～い		
古市図書館	3月のおはなし会はありません。			児童	ほかほか「はる」がやってきた♪	
羽曳が丘図書館	9日(土) 23日(土)	11:00～		芽吹き・春の訪れ		

春休みおはなし大会

日時 3月23日(土) ※事前申込み不要

① 13:30～「ホットケーキ」ほか (小さい子向き)
 ② 14:00～「かしこいモリー」ほか (小学校低・中学年向き)
 ③ 14:40～「三つのねがい」ほか (小学校高学年～大人向き)

場所 中央図書館 1階
 語り手 おはなしの森の皆さん

◇中央・陵南の森図書館でWi-Fiが使えます
 中央・陵南の森図書館内では、インターネット接続のための公衆無線LAN(Wi-Fi)をご利用いただけます。お手持ちのスマートフォンやパソコンなどの機器を使っている調べものなどに活用ください。具体的な利用方法などは図書館ウェブサイト・館内の掲示などでお知らせします。

今月の休館日 3月27日(水) 市内の図書館はすべて休館です。図書の返却はブックポストをご利用ください。

◇羽曳野市立図書館雑誌スポンサー募集 (令和6年度)

図書館では、令和6年度の雑誌スポンサーを募集します。図書館所蔵の雑誌が、地域の事業活動の身近な広告手段としてご利用いただけます。

【期間】令和6年4月～令和7年3月(年度単位) ※年度途中からは問い合わせ 【費用負担】雑誌の購入代金1年間分を指定先に直接支払う
 【配架場所】市内図書館より選択 ※ブックステーションコロセアムは除く 【提供雑誌】図書館所蔵の雑誌から選択
 【対象】企業、商店、組織・団体 ※個人不可 ※所定の審査あり
 【広告表示方法】雑誌の表紙面の透明カバーにスポンサー名を表示 (縦3cm×横10cm以内) ・裏表紙全面に指定の広告を掲出 ※詳細は、お問い合わせまたはウェブサイトをご覧ください。→「羽曳野市 雑誌スポンサー」で検索

期待できる効果・雑誌は図書館でも多くの方に利用され、回転率・利用率が高い。また、利用者は市内や近隣市在住の方が多く、地域での高い広告性が期待できる。
 ・市内全館での貸出利用者は年間約17万6千人(令和4年度)、最新号は館内閲覧期間を設けているので、多くの人の目に留まりやすい。
 ・幅広いジャンルの雑誌があるので、読者層を想定してターゲットを絞った広告ができる。

次のようなことも行っています・スポンサー名を市内全図書館に掲示(通年) ・ウェブサイト上の図書館のページ、公式Instagramにスポンサー名を掲載(通年)
 ・スポンサー名を「広報はびきの」「図書館だより」に掲載(随時)

<令和5年度 雑誌スポンサー> (敬称略、順不同)
 大阪府書店商業組合共同受注羽曳野市支部、(株)高松ギフトプランニング、羽曳野市商工会、お好み焼き「美吉乃」、(福)大阪福祉事業財団 高鷲学園、ガールスカウト大阪府第36団、恵我之荘商店会、結サロンなごみ 【問合せ】陵南の森図書館 ☎072-952-2750 FAX 072-955-5015

サラダボール

普段は何気なく日常生活を送っているのですが、ふとした時に私が何のために生まれてきたのか。ごくたまにですが、このようなことが頭の片隅を過ることがあります。

私の父は昭和15年8月に中国の満州で生まれ生活をしていました。第二次世界大戦の戦況が怪しくなってきた頃、すごく寒かったとのことです。歩けず手で這う祖母と、8歳の父の兄の3人で満州から引き揚げようとなりました。

しかし、祖母は、当初から日本へ辿り着くことは困難であると考えていたようで、汽車に乗り込み港を目指すのではなく、祖父から「いざという時のため」に持たされていた毒物を2人に手渡し飲むよう言いました。私の父は頑なに

拒否をしましたが、聞き分けのいい父の兄はそのとおりにして、そのまま息絶え、白い袋に入れられました。同じように白い袋に入れられた複数の遺体は次に到着した駅のホーム上に置き去りにされ、父はその様子が忘れられないようです。

その後は港で船に乗り換え、さらに小さい船に乗り継ぎ祖母とともに日本の地に足を踏み入れたとのことです。

祖母の故郷という長崎の天草に戻るも、祖母は体調が悪化し1週間程度で亡くなりました。その後、出征から帰国した祖父は、天草で父が生きていたことに大変驚いた顔をしていたとのことです。

2人で大阪に出て八百屋での住み込みをし、祖父はそこで縁のあった女性と再婚し、父は小学校へ入学することになったとのことです。これらのことが、幼少期の短期間で大変中身の濃い体験をしたのだと思います。

祖父は、帰国後も、戦争時の話は一切しなかったとのことで、この内容も当時5歳程度だった父の記憶であることから、季節や期間の感覚は曖昧であるようです。

私が中学生の頃に、この話を聞くまでは、父は4人の妹の兄であり、長男であることに何ら疑問に思っていませんでした。また、戦争がごく身近なものだと感じたものです。今回、当時の様子を聞き直しましたが、父自身も、継母にも実子のようによくしてもらい、就職してから面倒臭のいい上司など“人”に恵まれていると感じており、生かされていることに感謝しているとのことです。この話を聞いてから、私自身も何かに生かされているのだと考えるようになりました。

はびきのしじんけんけいはつすいしんきょうきかい
 羽曳野市人権啓発推進協議会